

ニンジンの栽培

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

【はじめに】

ニンジン人気の高い緑黄色野菜で、カロテンを多く含んでいます。カロテンは体内でビタミンAとなり、皮膚を丈夫にしたり眼に優しい効果などが期待されます。

原産地は中央アジアやトルコで、セリ科の野菜です。露地栽培ができ、病害虫にも比較的強いニンジンの栽培について紹介したいと思います。

【主な作型】

気候が温暖な和歌山県では「冬どり」と「夏どり」の2つの作型が可能です。8～9月に播種すると11月～1月に収穫、3月に播種すると6月頃が収穫となります。夏どりはとう立ちに注意が必要です。播種から収穫までは3～4か月程度かかります。

作型	8月	9月	10月	11月	12月	1月
冬どり	○	—————	□□□□			
		○	—————	□□□		
		播種				収穫
作型	2月	3月	4月	5月	6月	
夏どり		○	—————	□□□		
		播種				収穫

【主な品種】

○向陽二号

耐暑性と晩抽性に優れた品種で、様々な作型で栽培できます。根部は上から下まで良く肥大するオレンジ色のニンジンです。

○京くれない

金時ニンジンと西洋ニンジンの特徴を併せ持つ赤色のニンジンです。根部はやや長くなります。

【播種】

排水性の良い圃場に完熟堆肥や元肥を施用した後、丁寧に耕運し幅80～90cmでやや高めの畝を立てます（砂地は高畝にする必要はありません）。条間20cmで2条播きにします。深さ1cm程度の溝を切り、1～2cm間隔に播種します。播種後は薄く覆土をして、丁寧にかん水を行います。播種後は「乾燥防止」や「温度調節」のため、寒冷紗や不織布で被覆すると発芽が良くなります。ニンジンはダイコンなどと比べると発芽が遅く、気温にもよりますが、播種後10～14日程度で発芽します。

- 発芽適温は15～25℃
- 播種後～発芽まで土壌の乾燥に注意
- ニンジン栽培は発芽がポイント



発芽直後のニンジンの芽

【栽培管理】

本葉が2～3枚になった頃、株間2～3cmに間引きをします。さらに、本葉5～6枚頃に株間8cm程度に間引きをします。

最終の間引きを行った後、条間に追肥を行います。根部に直接日光が当たると変色して品質低下の原因となるので、施肥後にしっかりと株基へ土寄せを行います。



土寄せで根部へ光が当たらないようにする

施肥量は作型や土質、さらに品種によっても異なりますが、埴壤土の場合は元肥と追肥の合計で窒素成分15kg/10a程度が良いと思います。

時期	N : P : K
元肥 (定植前)	10 : 15 : 10
追肥 (最終間引き後)	5 : 5 : 5
計	15 : 20 : 15

【病害虫防除】

ニンジンと比較的病害虫発生が少ない品目ですが、時期によっては黒葉枯病やウドンコ病などが発生するので注意が必要です。



〔左：黒葉枯病〕

葉に黒褐色の斑点が発生する。高温乾燥時期に発生が多い。

〔右：ウドンコ病〕

カビによる病気で、葉に白い粉状の病斑が発生する。

【防除薬剤の例】

◇黒葉枯病

ベルコート(フ)1000倍、14日/5回
ストロビー(フ)3000倍、7日/3回

◇ウドンコ病

トリフミン(水)3000倍、前日/3回
シグナムWDG 2000倍、14日/2回

◇ハモグリバエ類

アファーム(乳)2000倍、前日/3日

◇ヨトウムシ

ランネート45DF1000倍、前日/2回
コテツ(フ) 2000倍、前日/2回

※農薬容器に記載された使用時期や回数等を確認して使用してください

【収穫】

季節によりますが、播種後3～4か月で収穫できます。収穫が遅れると、根部に亀裂が発生して品質が低下することがあるので適期収穫に注意して下さい。なお、家庭菜園の場合は大きな株から間引きながら収穫すると長期間収穫することができます。

露地で栽培でき、病害虫の発生も比較的少ないニンジン栽培に挑戦してみてもはいかがでしょうか。



収穫時期のニンジン圃場